

## 令和3年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 令和4年2月25日（金） 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:30～20:10
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉 秀一 部会長、大滝 達哉 副部会長、川上 義史 委員、宇野 雅樹 委員、  
佐々木 修一 委員、住谷 晋 専門委員、小岩 幹 専門委員
4. 会議次第
  - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
  - (2) 令和4年度健康推進課関係予算（案）について
  - (3) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第2回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は、渋谷専門委員から欠席のご連絡がありました。

地域医療推進部会、委員 8名中、7名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達しておりますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ◎部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

#### 【質疑・応答なし】

別になければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「令和4年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

#### ○事務局

資料の差替えをさせていただきたく、事前に送付している資料2「令和4年度健康推進課関係事業の概要」であります。前年度予算対比の増減の割合を、数字の横に矢印で表記しているものを、お手元に配布しておりますので、お手数ですが資料の差替えをお願いいたします。

それでは、令和4年度の健康推進課関係予算（案）につきまして、説明させていただきます。資料は1～2になります。資料1から説明させていただきます。

令和4年度の健康推進課関係予算（案）であります。予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。

まず、表の右側に、令和4年度予算を記載しております。

この中で、職員給与費へ振替分として、Bと記載している欄があります。

こちらにつきましては、令和2年度から、地方公務員法・地方自治法の一部改正により、これまでの嘱託職員等のうち、多くの職員が、会計年度任用職員に移行していることから、健康推進課で予算措置しておりました報酬等の予算を、職員給与費として人事課所管の予算に移行しておりますが、令和4年度からは短時間勤務の会計年度任用職員の報酬等も職員給与費に移行されたことから、過去と比較するためC欄を設けております。

左側の事業区分と、右側の令和4年度予算額につきましては、A欄をご覧くださいと思います。

まず、上から、保健衛生総務費が、6億557万9千円、そのうち、主なものでは、保健衛生推進費746万6千円、公衆浴場対策費1,247万5千円、看護師等養成機関確保対策費8,086万3千円、看護師等養成所整備補助事業費1億6,191万4千円、帯広厚生病院運営費補助事業費2億1,000万円、すこやかネット事業費435万6千円などとなっております。

妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、令和2年度より組織再編のため健康推進課関係予算として計上しておりますが、従前より児童育成部会で説明していることから当部会においては、予算額のみお示しすることとさせていただきます。

前年度と比較しての増減の主なものとして、看護師等養成所整備補助事業費として、地域の看護師不足の解消を図るため、医師会看護専門学校を整備を支援するための経費を新たに計上しております。

続きまして、夜間急病診療費は、1億6,128万2千円となっております。

内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、8,378万8千円、在宅当番や二次救急医療などの救急医療対策費が、7,749万4千円となっております。

休日夜間急病センター管理運営費が増となっている理由といたしましては、医療機器の更新に伴うリース料を計上しているものでございます。

続きまして、予防費は、総額で6億4,920万3千円となっており、主なものといたしましては、がん検診・健康診査費1億4,605万5千円、予防接種費4億1,314万8千円、感染症予防費8,671万4千円、健康教育費266万1千円などとなっております。

予防接種費が増となっている理由といたしましては、HPVワクチンのキャッチアップ接種に係る費用のほか、日本脳炎ワクチンの供給再開に伴う接種者の増に係る費用を計上しているものでございます。

次に、保健福祉センター費として、2,425万8千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

以上、総事業費は、A欄の歳出予算合計14億4,032万2千円となります。

続きまして、資料2、「令和4年度 健康推進課関係事業の概要」をご覧ください。

こちらは、資料1の内訳となります。

左側の、保健衛生総務費は、6億557万9千円で、医療体制の整備や医療の人材不足への対応のほか、公衆浴場対策、健康まつりや健康づくりのボランティアの養成、育成など市民の保健予防の推進のための予算となっております。

右側の、予防費は、6億4,920万3千円で、胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの5大がんの検診のほか、各種健康診査、予防接種や感染症予防、結核予防など、疾病の予防、早期発見のための経費と、健康相談、健康教育、訪問指導の経費を計上しております。

中央の夜間急病診療費は、1億6,128万2千円で、休日や夜間の救急医療を確保するものです。

帯広市の二次救急当番病院について、管内町村住民の利用割合が約4割を占めている現状となっていることから、その体制維持のため、三次救急同様、十勝全体での支援体制が必要との考えのもと、平成30年から協議・検討を進めているところです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおりの協議進捗が困難な部分もありますが、引き続き、二次救急医療体制の維持確保のため、帯広保健所をはじめ、関係機関と連携しながら、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、保健福祉センター費として、2,425万8千円を計上しております。こちらは、保健福祉センターの管理運営に要する費用でございます。

説明は以上でございます。

#### ◎部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

#### ◎委員

今の二次救急医療の件ですが、帯広市以外の町村からも何らかの負担金をもらうということを調整しているのか。

#### ○事務局

まずは二次救急の仕組みとして、十勝全体なのか周りの他町村なのか、その辺りの枠組みを改めて整理いたしまして、その上で、どのような負担が必要なのかを調整をしていかなければならないと考えているところでございます。

#### ◎委員

それで、保健所さんと帯広市さんと他にも町村方も交えてお話を進めるということですね。

歯科の方も前から休日は帯広市外の方も沢山来ていますという資料は何度もあげさせていただいたので、帯広市さんから助成金いただいていますけど、他町村からはいただいている状況なので、そこに歯科のことも加えていただけないでしょうか。話の中の進め方として、もし必要であれば資料とか再提出いたしますし、会議で呼ばれば担当者も出しますので、一緒に検討していただけないでしょうか。

#### ◎部会長

ここで言う二次救急医療というのは、実は帯広市と市内、以前は4医療機関だったのですが、この二次救急が3医療機関の打ち合わせだけだったのです。二次救急というのは、帯広市の事業で、

今言いました3病院、具体的に言いますと、厚生病院、協会病院、第一病院。この3つに二次救急をお願いするということで、それに対する人的なこともあるでしょうからということで予算がついていたのです。ただ、その金額というのが、実を言うと非常に少ないこともありまして、それで各二次救急の医療機関さん、特に第一、協会から。厚生につきましては先ほどの説明にありました別枠でまた出ていますけれども、もう少し上げてもらえないだろうかということが、帯広市と二次救急の医療機関の間で事務レベルで協議が始まったのです。

そこで、なかなか金額を上げると言うことは難しい中において、こちらから出した資料に二次救急に来るうちの3割から4割は18町村の患者さんが来ているんですよ。ですから、何とか18町村がそれに入ってこないだろうか。もともと帯広市だったのですが、しかも消防が広域化されてという経緯もありまして、二次救急対策検討会議という帯広市が主催する年一回の会議があるのですが、そこにはもともと保健所さんも入ってきているのですが、その時の委員長は市長なんですけど、市長と保健所長とでがっちりやり始めまして、何とか道の方も支援するように救急の二次医療機関さんに皆で協議しましょうという提案をしたんです。

それで平成30年ですよ。経緯でいうと、その時に、十勝医師会の方は、1.5次救急という考えを出してきています。1.5では、例えば十勝医師会国保病院だとか、色んなところで見るから俺たちはちゃんとやっていると。逆に町村に言って、町村は国保病院に手厚く支援してくれという、そういうような流れが一時できていたのです。でも実際、二次救急の流れはこうだよと言っても各町村は難しいですから、国保病院のあるところではなかなか議論が進まなかった流れによって、ここ何年かは音更、幕別、芽室、この近隣の町村は、やはり同じような医療圏に入るのだから、しかも国保病院の持っていない町村は、もう少し向き合ってほしいということで、そういうところの協議を詰めているという経緯がある。ですから、これはもともと医師会が入っていなかったのです。帯広市と二次救急の医療機関だけの会議です。それで予算がついていたのです。それに、なかなか少ないという話が二次救急から市へ上がってということですね。

#### ◎委員

結局、あそこに休日夜間急病センターを作った。

#### ◎部会長

あれは、全く別の話です、一次救急ですから。

一次救急はもともと委託事業で、帯広市と医師会の契約のもと、一次救急の委託というのは在宅であり、あるいは、急病センターでやっているのです。

二次救急は全く別に、帯広市が二次救急の医療機関さんに独自に支援をしていたんです。その代わりに二次をやってくださいと。ほんのちょっと前までは二次救急の輪番制の当番表というのは、帯広市以外の医療機関に配布されていなかったのです。それでは色々ありますよね。

18町村が帯広市の二次救急けっこう大変なんだからということで、もう少し支援してくれよという話を広げていったけれども、なかなか、はいそうですかというふうにはいかない。そういう経緯がありました。

ただ、先生、歯科医師会で運営している、あそこもなかなか大変であることは事実ですので、同じ救急医療という意味では、医療も歯科も同じですので、何とかという話ですよ。ただ、こじれてしまうとね。なんでもかんでも一緒ということになってしまうので。

◎委員

日常のスタッフ給与を含めても、ある程度、帯広市さんからの補助金で大丈夫なんですけど、機器が壊れると一回で何百万ということになるので。何年か前も半額補助していただいて、ユニットなど買い直したのですけれども、3台あるなか2台買ったのだけど、3台目が壊れそうだとか、そういう話がちょいちょいでるものですから、そういうところに色んなツテから補助いただくと、ありがたいなというところですよ。

日常の運営そのものがお金が足りないというそういうレベルの話ではないんですけど。

○事務局

分かりました。

◎部会長

ちなみに今の二次救急の医療体制は6病院で行っております。

あと、いかがでしょうか。

◎委員

健康まつりは来年度の予定は、どうなりそうですか。

○事務局

ここ2年間はコロナの影響で、まつりという形では実施はしてきてないですね。パネル展をやったりだとか、各団体の事業でやってきたのですが、来年度につきましては、基本的にはコロナによって実施できるかどうか、できるだけやれるような方向で考えて行きたいと思いますが、感染状況によっては、今年度と同じような取り組みになると思っております。

◎委員

この70万円の負担金は、これは一応、通常開催する予定で、満額を計上しているということですね。日にちはまだわからないですよ。

◎部会長

だいたい9月の1週目ですよ。確か、実行委員会で開催するかどうかを決めることになるのですよね。

○事務局

はい。

◎委員

感染症予防費のインフルエンザ予防接種の関係なんですけど、病院にいきますと掲示してあって、インフルエンザ予防ワクチンの不足のために、早く、いついつまでにしかできませんよとか、そういう掲示がしてある病院があるのですが、ワクチンの不足というのは国なりから割り当てがきていて、不足しているものなのか、その辺、改善されないのでしょうか。

○事務局

ワクチンの供給量がどうかという割り当てではないのですよ。

◎部会長

ワクチンは卸屋さんに来るのです。市内の大手の薬を扱う卸問屋に入ってくるのです。

それは、どのようにして入ってくるかということ、北海道に例えば何本というふうに入ってきて、それに、卸ごとがそれぞれ支店に分けているみたいですが、そこには行政は入っていないです。今年は何本作るかというのは厚労省が采配して作っているのです。それは、来年度の枠もワクチン量は決まっているはずなのですが、作っているのです。それをどこどこに、どうこの配分までは帯広市が仕切ったりというわけではないのです。

◎委員

帯広市がある程度の枠があって、ワクチンの量があって。

◎部会長

それは、ないです。

◎委員

ワクチン不足の現状にあるということは市ではわかっているのでしょうか。

現状では、不足しているのでしょうか。不足していないのでしょうか。

○事務局

国の方からの話では、シーズンを通せば供給量が確保されるというお話なのですが、ただ時期的に11月とか、一番接種が増える時期については、今年度については、確かに市民の方からのお電話でも打ちたくても打てないという話があったところです。ですから、必要な量、必要な時に必要な分ありましたかということになりますと、不足はしていたのかなと捉えております。

◎委員

意見としてはね、インフルエンザワクチン接種したい、希望している方にある程度、接種できる状態を作っていかなければならない。これだけ、色々な感染しているわけだから、コロナ含めて。そういう意味では不足していれば、帯広市の中で不足しているワクチン。これを補充していくような体制をやってもらいたい。要望ですけどね。

○事務局

この仕組みで行くと、なかなか、対外的にも国に求めていくことになると、なかなか難しいと考えています。

◎委員

今すぐ改善でなく、要望です。市民がインフルエンザワクチン打ちたいのだけど、不足していて打てないという現状を解消してほしいという要望です。

もう一つ、がん検診、健康診断の中で、病院によっては人間ドックの関係なのですが、今、各

大きな病院、総合病院では人間ドックをやっている。個人病院ではできないのですが、総合病院へいくと、人間ドックの金額が書いてある。そういう人間ドックは市の予算の中で、市の枠はできないのでしょうか。

○事務局

国民健康保険の方であれば、国保の方で人間ドックの申し込み受け付けておりますし、後期高齢者医療の方も国保課の方で、健康診査の受付とか人間ドックの受付もしておりますので、国民健康保険など持っている方であれば、市の方で対応させていただいていますが、他の社会保険になると、その社会保険の方で対応するか、しないかになってしまいます。帯広市の方でやっている国民健康保険と後期高齢者医療では人間ドックを実施しておりますので、毎年4月位に申し込み受け付けて、5月以降に実施する形で、費用無料でやらせていただいております。

◎委員

本人希望したい場合は、していただけるということですね。

○事務局

今は、倍率が高かったりするので、毎年受けれるかどうかは難しいところがあるかもしれませんが、申し込みはできるようになっております。

◎部会長

よろしいでしょうか。

あとはいかがでしょうか。

ないようですので、以上を持ちまして質疑を終了いたします。

次に、その他に入らせていただきます。

その他に関しまして皆様から何かご意見ございましたら、お願いいたします。

他になければ事務局の方から何かありましたら、お願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、稲葉部会長と調整の上、皆様に改めてご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎部会長

以上で予定されている議事はすべて終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。

お疲れさまでした。